

平成27年度 学校評価

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
地域に根ざし、生きる力をはぐくむ教育の推進 —自立・協働・創造— 自立・・・自分らしさを伸ばしていける子 協働・・・助け合って 共に生きる子 創造・・・よりよい生き方を実践する子	I 自立して未来に挑戦する態度の育成 II 子どもたちの学びを支える仕組みの確立 III 「生きる力」を育む教育の推進 IV 家庭や地域と一体となった安全・安心で開かれた学校づくり

領域	評価の観点	評価項目	学校関係者評価 A：優れている B：おおむね良好 C：やや改善 D：要改善
学校運営	豊かな人間関係をはぐくむ教育活動の推進	あらゆる学校生活場面を通じての自尊感情の育成	Aが適切な評価である ・児童の91%、保護者の97%が「子どもが学校に行くのが楽しい」と回答していることは評価できる。 ・子どもたち一人一人の居場所づくりや絆づくりに保護者と連携して取り組まれており、登校しにくい子どもが減ってきている。 ・今後も全ての子どもが学校に行くことが楽しいと感じ、一人一人のよさや可能性が一層引き出される学校づくりを組織的に推進してほしい。
		いじめ・不登校の未然防止、早期発見、早期対応	Aが適切な評価である ・「人とつながる命の講演会」や「ことば磨き塾」など、仲間づくりや人権を尊重する取組が、計画的・体系的になされている。 ・日々子どもに対するかかわりやいじめアンケートなどにより、いじめの早期発見と組織的な対応に努められている。 ・子どもや保護者との教育相談活動が、定期的または適宜に行われていることにより、登校しにくい児童が減少している。 ・子どもと家族の普段の会話もよくなされており、保護者が子どもの変化にいち早く気づく要因となっている。
課題教育	ふるさと学の推進	「黒井城まつり」や「黒井型体験学習」を通じた地域に対する誇りと愛着心の育成	Aが適切な評価である ・オープンスクールや黒井城まつりなどの行事を通して、子どもたちが生き生きと学校生活を送っている様子が伝わってくる。 ・それぞれの学年が行っている地域学習や体験学習が学年別・月別に整理されており、発達段階に応じて計画的に地域と連携したふるさと学習が展開されている。 ・県立氷上高校との計画的な交流も黒井小ならではの取組である。
教育課程	確かな学力の確立	「わかる、できる」が実感できる授業づくり	Bが適切な評価である ・国語で95%、算数で88%と、ほとんどの子どもが授業がよくわかると答えており、「わかる・できる」が実感できる授業づくりが実践できていると考えられる。 ・学んだことを確認したり、活用したりする時間を指導過程の中に位置づけ、さらに意欲的に学習に取り組む子どもの育成を図ってほしい。
		家庭と連携した生活リズムづくりと家庭学習の充実	Bが適切な評価である ・各学年に応じて「家庭学習のてびき」が発行され、家庭と連携した取組が推進できており、約83%の子どもが、学年の目標の時間以上家庭学習をしている。 ・家庭でのテレビ視聴やテレビゲームの時間、携帯電話・スマートフォンの使用について、各家庭と学校が連携して約束づくりをする必要がある。 ・読書に親しむ習慣を確立するため、丹波市立図書館との連携や「家庭読書の日」の推進を図っていく。

自己評価の実施方法についての評価

6月には保護者と児童に生活アンケートを実施し、学習に対する意欲や生活実態を調査した。その結果を地区懇談会「ひとみ輝く黒井っ子を育てる会」で提示し、保護者、地域住民、教職員などの参加者が子どもたちの生活や学力の向上について話し合った。
12月にも再度アンケートを実施し、その結果を6月の結果と比較し考察されているので、取組の成果や課題が把握しやすくなっている。2月には、成果や課題を考察したものを、保護者に公表するなど、適切に情報提供がなされている。

学校関係者評価のまとめ

豊かな人間関係をはぐくむ教育活動の推進については、様々な活動を通して自尊感情や自己有用感も高まるとともに、子ども同士や子どもと教師との絆づくり、信頼づくりが推進できている。
ふるさと学の推進については、「黒井城まつり」をはじめとする黒井型体験学習を通して、地域の自然、歴史、産業、人とのかかわりなど、発達段階に応じて計画的に地域と連携したふるさと学習が展開するなど、ふるさと意識の醸成が図れている。
確かな学力の確立では、約9割の子どもが授業はよくわかると答えており、「わかった」「できた」が実感できる授業づくりが実践できている。家庭学習や家庭読書など、家庭との連携を一層図り、主体的に学習に取り組む意欲や態度を育成したい。